



伊國  
人  
ウ  
ィ  
ス  
ニ  
ヱ  
ヅ  
ス  
キ  
ム  
銀  
行  
設  
立  
願  
書

大藏省  
翻譯課

810





414  
A1168

即ち銀  
行紙幣



皇帝陛下ノ政府へ呈ス

銀票（イナゴ）數百年來日本國ノ知道シテ通用セシモノナリ、

數多ノ州立銀行アリ銀票發行ヲ為セリ

第二条 歐羅巴ニテモ重疊利加ニテモ銀行ハ概子高業危急ノ

時ニ際シテ別テ危キモノナリト知道ス

第三条 鞏固ニ設立セル銀行ノミ正金ノ準備ヲ失ハズ且能ク

兵時兵貨增加理財上ノ困厄ニ當テ政府ヲ補助シ得ル

モノトス

第四条 此故ニ英國ノ議院ハ通債議案書英一千八百四十四年ノ

議案ヲ以テ英國銀行ヲ設立シ單一ナル中央銀行トセ

リ。佛國ニテハ千八百四十八年州立銀行十個ヲ合併セ

シニ依リ銀票ノ信用ト流通ヲ増加シテ大美景ヲ生セ

藤井善言譯

大正十一年四月  
報候爵寄贈



リ千八百四十六年猶ホ州立銀行ノ存在ニ時ニハ該  
州立銀行ノ通貨ト佛國銀行ニ附属銀行ノ通貨ヲ合テ  
三億六千三百万フランクヲ超ヘザリキ然ルニ千八百  
六十三年ニ至リテハ八億ヲ超ヘタリ  
千八百五十一年七月二日セント爵カケル氏議院ニ於  
テ開陳シテ曰ク我等ハ毎々商業ヲ覆滅セントスル危  
急ヲ救フニハ極テ鞏固ナル中央銀行ニ依ラザレバ別  
ニ良方ナシト信ス依テ伊太利國ニ中央銀行ヲ創立セ  
リ。亞墨利カニ至モ大危急ノ後中央銀行ノ緊要ナルヲ  
知リセリ。日耳曼ニ於ケモ許多ノ銀行濫立セシニ依  
帝國銀行ヲ設立スルノ緊要ナルヲ發見セリ  
令マ争乱ニヨリ好変革ヲ生シ日本ノ十八州原文ノハ  
一致シテ皇帝陛下ノ直轄ニ歸セリ

第五條

第六條 行政上ノ一致ヲ完全スル為メ宜ク鞏固ナル中央銀行  
ヲ設立シ財政ノ一致ヲ為ス可シ但日本國在来ノ州立  
銀行ノ権理ト職分ヲ侵スヲ得ズ  
日本國理財ノ位地ヲ認知シ及右ノ條件ヲ察考シテ款尾ノ  
名人左ノ規則ト条約ヲ以テ日本帝國銀行ノ名称ヲ附シ其諸中  
央銀行ナルモノヲ創立スル先可ノ公書ヲ請求ス  
第一條 ウイスニエウスキー公并其社中ハ日本皇帝陛下ノ政  
府ヨリ帝國銀行紙幣發行割引ノ特許ヲ受タル者ト明認セラル  
但總テ他ノ類似ノ所為ヲ許サレズ  
第二條 日本帝國銀行ハ準備正金ノ四倍ニ至ルマデ到着拂持  
參人拂ノ銀票ヲ發行スルヲ得可シ  
第三條 日本在来ノ諸銀行ハ従前ノ通り到着拂持參人拂ノ銀  
票ヲ發行スルヲ得可シ但該銀票ハ帝國銀行ノ証印ヲ捺スカ然



ラガレバ(歐洲ノ諸大國ニ行ハル、如ク)日本全國ノ銀票上同種類  
ニス可シ

第四条 右諸銀行ノ発行スル銀票ニハ帝國銀行ノ記名ヲ為サ  
シ

第五条 當銀行ハ貳十萬フランク(ハ十萬磅)ノ結社資本ヲ有セ  
シ一株五百フランク(二十磅)トシ之ヲ一連ニ五百萬フランク(二  
十萬磅)ツ、発行シ五十萬フランク(貳百萬磅)マデ増加スルノ權  
アリ

第六条 銀行ハ屬店支店ノ設アル都會ハ派出ス三記名ニ  
於ケル六ヶ月期迄ノ高券ヲ割引セシ但  
ル日本或ハ外國ノ公債証書ノ讓渡ヲ以  
高券ニ至テハ單ニ二記名ノミナルヲ割引セシ且此記名ノ撰擇  
ハ銀行會議ニ於テ毎六ヶ月ニ定メン

商品大寄託通常寄託或ハ一般ノ高店ニ寄託セル生糸商品  
ニ關スル寄託証書或ハ抵当証書ヲ割引セシ

第七条 銀行ハ自家ノ為メニ宝金屬ヲ賣買セシ或ハ他人ノ為  
メニレテ其手数料ヲ収メン

第八条 金剛石、金、銀、外國市場ヘノ為替証書、内外ノ記名無記名  
公債証書ヲ寄託品トシ或ハ前拂金又ハ為替証書ノ抵当トシテ  
或ハ管護品トシテ受納セシ而シテ其受託料ヲ収メン

第九条 拂入ル、金額及ヒ拂入ル、金額証書ヲ時價ニテ受取レ  
該金額ヲ拂入レシ人ノ注文ニ應ヒテ拂出サシ

第十条 允可受主ハ銀行ノ資本ヲ作ルニ(歐洲大會社ノ行フ如  
ク)或ハ自身ノ財産ヲ以テシ或ハ株金ヲ以テセシ

第十一条 今設立ス可キ銀行ノ條例ハ英國佛國伊國ノ銀行條  
例ヲ根拠トシテ定メシ而シテ株主ト允可受主トノ間ニ定メタル

印字  
業人



ラガレバ(歐洲ノ諸大國ニ行ハル、如ク)日本全國ノ銀票同種類  
ニス可シ

第四条 右諸銀行ノ發行スル銀票ニハ帝國銀行ノ記名ヲ為サ  
シ

第五条 當銀行ハ貳十萬フランク(二十萬磅)ノ結社資本ヲ有セ  
シ一株五百フランク(二十磅)トシ之ヲ一連ニ五百萬フランク(二  
十萬磅)ツ、發行シ五十萬フランク(貳百萬磅)マデ増加スルノ權  
アリ

第六条 銀行ハ屬店支店ノ設アル都會ハ振出ス三記名ニ  
於ケル六ヶ月期迄ノ高券ヲ割引セシ但高社ニテ價直ヲ示定マ  
ル日本或ハ外國ノ公債証書ノ讓渡ヲ以テ高品ノ為ニ作レル  
高券ニ至テハ單ニ二記名ノミナルヲ割引セシ且此記名ノ撰擇  
ハ銀行會議ニ於テ毎六ヶ月ニ定メン

此一段原文  
原文ノ終ヲ

商品大寄託普通寄託或ハ一般ノ商店ニ寄託セル生糸商品  
ニ關スル寄託証書或ハ抵当証書ヲ割引セシ

第七条 銀行ハ自家ノ為ニ宝金屬ヲ賣買セシ或ハ他人ノ為  
メニシテ其手数料ヲ取メン

第八条 金剛石、金、銀、外國市場ヘノ為替証書、内外ノ記名無記名  
公債証書ヲ寄託品トシ或ハ前拂金又ハ為替証書ノ抵当トシテ  
或ハ管護品トシテ受納メン而メ其受託料ヲ取メン

第九条 拂入ル、金額及、拂入ル、金額証券ヲ時價ニテ受取レ  
該金額ヲ拂入レシ人ノ注文ニ應シテ拂出サシ

第十条 允可受主銀行ノ資本ヲ作ルニ(歐洲大會社ノ行フ如  
ク)或ハ自身ノ財産ヲ以テシ或ハ株金ヲ以テセシ

第十一条 今設立ス可キ銀行ノ條例ハ英國佛國伊國ノ銀行條  
例ヲ根拠トシテ定メン而メ株主ト允可受主トノ間ニ定メタル

即ち其  
業人



ラガレバ(歐洲ノ諸大國ニ行ハル、如ク)日本全國ノ銀票同種類ニス可シ

第四条 右諸銀行ノ発行スル銀票ニハ帝國銀行ノ記名ヲ為サ

第五条 當銀行ハ貳十萬フランク(ハ十萬磅)ノ結社資本ヲ有セ  
ン一株五百フランク(二十磅)トシ之ヲ一連ニ五百萬フランク(二  
十萬磅)ツ、発行シ五千萬フランク(貳百萬磅)マデ増加スルノ権  
アリ

第六条 銀行ハ屬店<sup>支店</sup>ハ支店ノ設アル都會へ振出ス三記名ニ  
於ケル六ヶ月期迄ノ高券ヲ割引セシ但高社ニテ價直ヲ示定マ  
ル日本或ハ外國ノ公債証券ノ讓渡ヲ以テ高品ノ為ニ作レル  
高券ニ至テハ單ニ記名ノミナルヲ割引セシ且此記名ノ撰擇  
ハ銀行會議ニ於テ毎六ヶ月ニ定メン

商品大寄託<sup>デポジット</sup>所通常寄託所或ハ一般ノ商店ニ寄託セル生糸商品  
ニ關スル寄託証券或ハ抵当証券ヲ割引セシ

第七条 銀行ハ自家ノ為ニ宝金屬ヲ賣買セシ或ハ他人ノ為  
メニシテ其手数料ヲ収メン

第八条 金剛石、金、銀、外國市場へノ為替証券、内外ノ記名無記名  
公債証券ヲ寄託品トシ或ハ前拂金又ハ為替証券ノ抵当トシテ

或ハ管護品トシテ受納メン而メ其受託料ヲ収メン

第九条 拂入ル、金額及、拂入ル、金額証券ヲ時價ニテ受収レ  
談金額ヲ拂入レシ人ノ注文ニ應シテ拂出サン

第十条 允可受主ハ銀行ノ資本ヲ作ルニ(歐洲大會社ノ行フ如  
ク)或ハ自身ノ財産ヲ以テシ或ハ株金ヲ以テセシ

第十一条 今設立ス可キ銀行ノ條例ハ英國佛國伊國ノ銀行條  
例ヲ根拠トシテ定メン而メ株主ト允可受主トノ間ニ定メタル

此一段原文解シ難シ因テ  
原文ノ終ヲ譯ス



約束ヲ字ラシ

日本皇帝陛下ノ政府ハ條例ノ允准ヲ約ス

第十二條 銀行ハ東京倫敦巴里ノ三ヶ所ニ本店ヲ設ケン而シテ

日本政府ノ理財上ト商業上ニ要スル地方へ屬店ヲ建テ支店ヲ

開カン

第十三條 皇帝政府及シテ日本ノ都會州邑ト共ニ募債國債証書

ノ發行ノ一部或ハ全部ヲ請込約条セシ

第十四條 銀行ノ銀票ハ合法通貨即チ政府ノ金庫ニ受取セラ

ル可キ貨幣タル特權ヲ有セシ

第十五條 銀行ノ得タル純益ハ左ノ順序ノ如ク分配セラレ

一 銀行株主へ拂フ可キ利息ハ年八分ノ割合ヲ以テ銀行本店

屬店支店ヨリ渡ス可シ

一 益金ノ過剩ハ左ノ如ク分配セラレシ

準備資本金へ 百分ノ二

株主へ 百分ノ六

允可受主へ 百分ノ一

基業允可受主へ授クル該金額ヲ二万分ニシテ其一ヲ

各株へ配当シテ之ヲ二万株ノ益金トス

按ニ基業允可受主ハ二万株ヲ有スル者トレ之ニ

二万株ノ益金ヲ給スルノ意ナラン

第十六條 當允可ハ銀行設立ノ時ヨリ九十九ヶ年間請願人へ

授與セラレ而シテ其設立マデニヶ年ノ延期ヲ允可受主へ授与

ス

第十七條 允可公書ハ和文英文佛文ニテ筆記ス法律上ニテ株

券ノ動産タルヤ不動産タルヤニ至テハ允可受主ハ國法ヲ遵守



セン

第十八條 皇帝政府ノ諸官人ニ外國派出官ハ允可受主へ堅固ナル助カラ為サン且当宣示ヲ十分ニ施行スル為メニ要スル保護ヲ為サン

何國月日

政府

外務卿ノ印ヲ合法ナリトス

伊國全權公使

巴里府羅馬街八号

伊太利國人

「オモシエ、ド、ラ、グ、ロ、ン、ヌ、デ、タ、リ、エ、ド、ル、ド、ル、デ、  
サン、モ、リ、ス、エ、ラ、ガ、ル、」伊國勲位「レ、エ、ウ、ハ、リ、エ、ド、ロ、ル

ド、ル、ロ、ワ、イ、マ、ル、ド、ウ、ハ、サ、ド、ス、ウ、エ、ド、 瑞典國勲位

願人

千八百七十八年六月廿七日

ウイスニエガスキリ公



セシ  
第十八條 皇帝政府ノ諸官人ニ外國派出官ハ允可受主ヘ堅  
固ナル助カヲ為サン且当宣示ヲ十分ニ施行スル為メニ要スル  
保護ヲ為サン

何國月日

政府

政府之印

外務卿

外務卿之印

外務卿ノ印ヲ合法ナリトス

伊國全權公使

巴里府羅馬街八号

伊太利國人

「オマシエー、ド、ラグーロンヌ、デ、タリ、エ、ド、ル、ド、ル、デ、  
サン、モーリス、エ、ラ、ザール」伊國勲位「レ、ニ、ザ、ハ、リ、エ、ド、ル、

抄ニ本条ノ案文ニテ採用マラ  
此通リニ謄寫レ此母ヘ斯クノ如ク  
印ヲ請テ伊國全權公使ノ証明ヲ

「ド、ル、ロ、ウ、イ、ヤ、ル、ド、ウ、ハ、サ、ド、ス、ウ、エ、ド」瑞典國勲位

願人

千八百七十八年六月廿七日

ウイスニエヴスキリ公



セン

第十八條 皇帝政府ノ諸官人ニ外國派出官ハ允可受主へ堅固ナル助カヲ為サシ且当宣示ヲ十分ニ施行スル為メニ要スル保護ヲ為サシ

何國月日

政府

政府之印

外務卿

外務卿之印

外務卿ノ印ヲ合法ナリトス

伊國全權公使

巴里府羅馬街八号

伊太利國人

「オムシエー、ド、ラ、グー、ロンヌ、デ、タ、リ、エ、ド、ル、ド、ル、デ、カ、ン、モ、ー、リス、エ、ラ、ガ、ー、ル」 伊國兼位「レ、ニ、ウ、ハ、リ、エ、ド、ル、ド、ル、

ド、ル、ロ、ワ、イ、マル、ド、ウ、ハ、サ、ド、ス、ウ、エ、ー、ド、 瑞典國兼位

願人

千八百七十八年六月廿七日

ウイスニエヴスキリ公

抄ニ本条ノ案文ニテ採用マラルハ、ハ約条書ヲ此通りニ謄寫レ此等ハ斯クノ如ク政府ノ外務卿ノ捺印ヲ請テ、伊國全權公使ノ証明ヲ受ル願望ナラン







